

新しい公共支援事業の成果等報告
(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

1. 成果等報告

モデル事業名	『青梅の森』保全事業
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 <input type="checkbox"/> NPO支援重点化枠 <input type="checkbox"/> 震災支援枠 (該当するものにチェック)
事業実施主体名	青梅市
実施期間	平成24年4月2日から平成25年3月29日
支援額 (注釈参照)	※ 支援額は総額及びその内訳を記載してください。
マルチステークホルダー(会議体)の取組状況	青梅の森運営協議会の設置に向けて、組織づくりを効率的かつ円滑に行うため、関係団体や市内の関係部署との調整等を進めていきました。青梅の森運営協議会の設置のための委員会を平成24年8月に発足し、5回の検討会と、1回の現地視察を経て青梅の森運営協議会を設置しました。委員には青梅の森事業計画策定時の検討委員が所属するNPO法人青梅林業研究グループ(青梅りんけん)、里山保全活動グループ(西多摩自然フォーラム)、青梅青年会議所、青梅市の外郭団体であるみどりと水のふれあい事業推進協会(みどり協会)、青梅ボランティア・市民活動センターを有する社会福祉協議会、青梅市(公園緑地課)の6社で構成しています。平成25年3月に青梅の森運営協議会を正式に設置し、平成25年4月より、青梅の森全体を永続的に保全するための体制や規則等を制定するなど実施してまいります。
事業概要	青梅の森は、91.7haに及ぶ広大な森のため行政だけでは保全・整備・運営を進めていくことは困難です。そのためNPOや市民(都民)ボランティア、学校関係、企業、他の自治体との共同により管理運営するための組織として、青梅の森運営協議会(仮称)設置のための委員会を発足し、青梅の森運営協議会を設置しました。 また、青梅の森運営協議会の会議や、市民(都民)ボランティアのワーキングなどに使用するため、既存ストックを活用し、拠点施設を整備しました。
事業内容	青梅の森は、91.7haに及ぶ広大な森のため行政だけでは保全・整備・運営を進めていくことは困難です。そのためNPOや市民(都民)ボランティア、学校関係、企業、他の自治体との共同により管理運営するための組織として、青梅の森運営協議会(仮称)設置に向けた支援業務委託を発注し、青梅の森運営協議会設置委員会を発足し、青梅の森運営協議会を設置しました。 また、青梅の森運営協議会の会議や、市民(都民)ボランティアのワーキングなどに使用するための施設として既存ストックに備品を購入し整備しました。
得られた成果及び自己評価	平成25年度より青梅の森運営協議会を稼働させ、未来へ引き継ぐための継続的な事業展開、NPOの育成、市民と青梅市、企業等が一体になり、自然環境に配慮しつつ活用していくための会議、研修等を行うため、拠点施設を整備しました。 また、市内外の多くの人と協働・連携できるよう、平成24年11月23日にシンポジウムを開催しました。167人もの人々に参加していただき、アンケートを実施した結果、青梅の森での保全の方向性について96%の賛同を得ることができました。さらに、広報おうめを48,000部作成し、43,250部を発行しました。残りの4,750部は窓口で配布し、市民へ普及啓発してまいります。 また、青梅の森運営協議会設置委員会において、青梅の森における安全作業のた

	めの基礎ルールや、10年後までの施業実施計画を策定しました。	
評価ラ ンク	<input type="checkbox"/> S : 特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> A : 優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B : 一定の成果 が得られた <input type="checkbox"/> C : 限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D : 成果が得られなかった (該当する評価にレを付けてください。)	

(注) 当該支援額により取得し、又は効用の増加した価格が50万円以上の機械及び器具等がある場合、別葉にて、機械等の名称、価格、管理者及び耐用年数等を明記すること。

2. 添付書類

新しい公共の場づくりのためのモデル事業自己評価シート